

松原市教育委員会 1 月定例会 議事録

1. 日 時 平成30年1月30日(火) 午後3時00分

2. 場 所 松原市役所 3階庁議室

3. 付議事件等

- (1) その他
- ・平成29年度成人式について
 - ・竹内街道日本遺産認定記念まつばらかるた大会について
 - ・松原市児童生徒等就学援助費支給要綱の改正について
 - ・中学校給食の献立募集について
 - ・台湾学校交流について

出席委員 東野教育長 辰巳教育長職務代理者 松井教育委員 栗崎教育委員
田中教育委員 有馬教育委員

事務局 瀧澤学校教育部長 高橋教育監
浦井教育総務部次長兼教育総務課長
小川副理事兼学校給食課長兼ねて松原市立学校給食センター所長
横田学校教育部次長
芝田文化財課長 平井教職員課長 山森教育推進課長

東野教育長	<p>それでは、会議のほうに入りたいと思います。</p> <p>ただいまの出席の教育長及び委員数は6名です。定足数に達しておりますので、会議は成立しております。</p> <p>(開会宣言 午後3時01分)</p> <p>これより1月の定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>なお、事務局から伊藤教育総務部長、宮本教育政策課長、幸教育研修センター長、菊地地域教育課長4名が欠席との届け出がありましたので、報告いたします。</p> <p>まず、会議録についてお諮りいたします。</p> <p>12月定例会の会議録についてご異議ございませんでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
東野教育長	<p>異議なしと認めます。よって、12月の定例会会議録については承認と決しました。</p> <p>次に、本日の会議録の署名委員を指名いたします。</p> <p>委員会会議規則第17条第2項の規定により、松井委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
松井委員	はい。
東野教育長	<p>それでは初めに、教育長報告を行います。</p> <p>お手元の資料に基づいて、この間の主なことについて報告させていただきます。</p> <p>12月28日と1月4日の部長会では、昨年の総括や今年の課題について協議を行ったところでございます。</p> <p>1月4日、15日、18日、24日の松原市第5次総合計画策定委員会では、第4次総合計画の検証や現状、課題等について審議をしております。</p> <p>1月8日の成人式には、教育委員の皆さんもご出席ありがとうございました。1,394名が対象で、今年は打打打団の演奏もございました。後ほど担当課から報告があるかと思ひます。</p> <p>1月15日、ISSインターナショナルセーフスクールの認証式が、認証審査員にパク先生を迎えまして中央小学校、布忍小学校、松原第三中学校で行われました。教育委員の皆さんにもご出席いただきました。3年間にわたる学校、保護者、地域の協働による安心・安全な学校づくりの取</p>

組みが国際認証取得という成果となり大変喜んでおります。今後はさらに取り組みを深めていかなければなりません。今後とも皆様のご協力のほど、よろしく願いをいたします。

1月20日でございます。社会を明るくする運動のスピーチコンテストへ出席いたしました。子どもたちのしっかりした考えや訴えを聞かせていただき、非常に感動するものでございました。

次に、1月28日でございます。まつばらかるた大会を開催させていただきました。教育委員の皆さんにもご出席いただきました。こちらも後ほど担当課からの報告があるかと思えます。

それで、最後の1月29日、昨日ですが、アウィーナ大阪にて、教育委員さんとともに、道徳の教科化に伴い今しなければならぬことについての講演を聞いてまいりました。

また、この間、各種団体の行事等にも参加しております。

以上、報告とさせていただきます。

この報告につきまして、何か、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

東野教育長

よろしいでしょうか。

それでは、本日の議題のほうに入ります。本日は、その他案件が5件となっております。

まず、平成29年度の成人式について、事務局より報告をお願いいたします。

横田学校教育
部次長

学校教育部、横田でございます。よろしくお願いいたします。

1月8日の成人式には、委員の皆さんもご出席ありがとうございました。晴れの舞台をご覧いただきまして、感謝申し上げます。

当日の参加者ですが、今年度の対象の成人1,394人中、835名で、出席率でいいますと約60%になります。内訳ですが、男性が405名、女性が430名、若干女性が多い状況でございました。

当日は、皆様方、舞台から見ていただいていたお気づきになられたと思うんですけども、非常に静粛で厳粛なムードで、私は成人式に出るのが連続13回目なんですけど、さまざまな来賓の方のご挨拶を聞く成人の態度が一番よかったです。松原の教育の成果がここにあらわれているんだなというのを、本当に小・中学校の先生に直接見ていただきかけたぐらいです。他市の報道ではさまざまな元気な成人の姿が報道されておりますが、松原もかつては若干そういう状況もございましたが、年々、

本当に成人らしい成人式になってきたということでご報告しておきます。

なお、この成人式の第2部といいますのが、成人の中からの立候補による実行委員会形式でずっとやっておりまして、成人たちが自主運営するというかたちを、ずっと引き継いでおります。その中で「本当にやってよかった」、「いい成人式ができた」と成人式の実行委員会のメンバーの生の声も聞けました。また、実行委員が前に立って抽選会等もしているんですけども、客席から見ていた元同級生たちから「本当にご苦労さんで、いい成人式をつくってくれたね」という感謝の声もあったというふうに聞いております。本当にご協力ありがとうございました。

報告は以上です。

東野教育長

報告のほう終わりました。

この件について、何かご意見とかご質問ございますか。特によろしいですか。

栗崎委員

本当に横田次長がおっしゃるとおり、私も4回ぐらいですか、行かせていただいた成人式の中で一番よかった。それで、いろいろ知り合いの方に話をするんですね。「市長が話をされるときもシーンとしてね、今まで、かつてないくらいよかったわ」と何人かに言ったんですが、何人かが必ず同じことをおっしゃるんですね。何だと思いませんか。必ず「でも元気ないんちゃう」とか「活気ないんちゃう」とかね、そういうことを必ず40代、50代のお父さんとかですよ、今大学生とかいらっしゃるお父さんやお母さんがおっしゃるんですね。びっくりしました。「いや、そうやないやろう。そういう式の礼儀というのがきちっとできているということじゃないの」と思いますけど。

横田学校教育
部次長

やはりその場、その場にふさわしいTPOを使い分けられる、そういう人材を育成できているんだなということで私は感じているんですけども。「元気な側面はそういう場ではなく、別の場面で出していただくべきことですので、あの場ではああいう振る舞いができているということは松原市の教育の成果である」と、「みんなで成人をお互いに祝い合う場で、あれだけのありがたいお言葉をいただいているんですから、静かに受けとめて聞くということができているんだ。元気さは別の場所できいろいろと発揮されている」ということをお伝えいただければと思います。

東野教育長	<p>そうですね。始まる前はざわざわ、がやがやしていたのですが、始まるとともに、だんだんずっと静かになって、来賓の方や市長の挨拶のときは非常に静かになっていたかと思います。</p> <p>ちょっと気になったのが左奥のドアのところ、ちょっとした集団がいらっしゃいました。あそこがなにかざわざわとしかかったんですけども、後から聞くと周りの子らに注意されて、それで静かになった。あの辺ちょっと騒ぐかなと一瞬思っていたんですけども、やっぱり周りの成人の方々に注意をされて、おさまったなという感じでした。</p> <p>昔でしたら、私たちが抑えに行っていたのが、今は同じ世代の人が「もうそんなやめとき、ちょっと静かにしっ」という形で注意していたと。そういうことから見たら、最近の方々は十分しっかりしてきたという感じですよ。</p>
栗崎委員	<p>大人になってきたんでしょうね。</p>
東野教育長	<p>ぜひ、こういうことは、どんどん続けていただいて、次はいろいろな発表の場で、元気を出してやっていただければいいかなと思います。</p> <p>また、来年度よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、もうこれはよろしいですか。</p>
各 委 員	<p>はい。</p>
東野教育長	<p>それでは、次に入りたいと思ひます。</p> <p>続きまして、竹内街道日本遺産認定記念まつばらかるた大会について、事務局より報告をお願ひいたします。</p>
芝田文化財課長	<p>文化財課、芝田でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>先日、28日の日曜日でございます。ご存じのように、松原の歴史とか文化を描いたかるたを使って、子どもたちに松原のことを知ってもらいたいということで、今回3年目になりますが、開催させていただきました。</p> <p>今回の特徴としましては、昨年4月に竹内街道が日本遺産に認定となりましたので、その記念ということで、観光課とコラボしまして開催をさせていただきました。また、当日、古代飛鳥時代の風景画を描かれています早川さんという女性の方なんですけど、その方から原画をお借りしまして、場内でパネル展示をさせていただきました。</p>

当日の参加の状況なんですが、事前申し込み115人、昨年が小学生だけで102人でしたので、昨年よりも上回る数の事前の申し込みがございました。ただ、残念ながらインフルエンザがかなりはやっておりまして、当日参加が90人ですので、25人の欠席となりました。当日も残念ながら連絡なしで欠席される方もいらっしゃいましたので、多分子どもたちは出たいということで、ぎりぎりまで思われていたと思うんですけども、それでも90人の参加を得て、盛大に開催することができました。

皆さん家で練習していたり、あるいはこの間、学校にもお配りしていますので、各クラスでも練習されている様子で、中には半身になって乗り出してくる子もおりましたので、子どもたちは1枚でも多くとりたいという思いがそこに出ていたかなというように思っています。

今回、優勝、それから準優勝の方には記念のガラス楯、あとまた敢闘賞の子を含めまして副賞を差し上げております。来年もまた同じような形で、引き続いてかるた大会のほうもさせていただきます。年々、今回は半分近くが兄弟参加も結構多くありましたので、全体に浸透してきているかなというふうな思いがございますので、また今後ともよろしく願いいたします。

以上でございます。

東野教育長

ありがとうございました。

この件について何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

田中委員

かるた大会を拝見させていただいて、本当に私見なんですけれども、低学年の子どもたちを見ていると、初めは引っ込み思案な子はちょっと手が出しにくい、ところが、時間がたってその子らも1枚、2枚とってくるのだんだんなじんでくる。なにかこれが、その子どもたちの性格というのか、直すのではないですけども、伸ばしていくのに使うことができないかなと、ふと思いました。だから授業の一環としてやることによって、例えばおとなしい子ばかり集めてすると、その中で何となく自分もどんどんやっていったほうが良いというようなことを感じてくれる、どういふのかな、ちょっと言葉としていいあらわしにくいのですが、何かそういうようなことで、このかるたというものを利用したらいいのではないかと感じました。

芝田文化財課長

以前もかるたをお配りして、その後、各学校のほうにも、どんな利用の仕方をされていますかということで、ちょっとお問い合わせさせてい

ただきました。今おっしゃられたように、とる子もおればなかなかという子もやっぱりいると。ただ、クラスの班の中でやってみる中でコミュニケーションがとれますし、何よりもスポーツはちょっとという子でも、かるたとなるとずっと手が出る子もいる。また、最初はだめでも、何回か続けていくうちに、それができるということで、やっぱり自分が活躍できる場はいろんなところにあるんだというのがわかることが、学びになるのかなと思いますので、また学校のほうでも、積極的にこういった利活用をしていただければありがたいと思っております。

田中委員

今、上手に言ってくださった、そのとおりです。

東野教育長

そうですね。私が見ていた1年生と2年生のところも、初めはみんな、ゆったりととっているんですけども、札が半分ぐらいになってくると、だんだん集中して、はまってくるんですよ。だんだん早くなってきて、最後の4、5枚になったら、さっきも言ってた体を乗り出してバーンととりに行くんですね。実際、最後になると勝敗はもう決まっているんですが、「あの子はたくさんとっている、でも私は何枚しかない、でも諦めない。最後の1枚、2枚、早く読み手何か言わないかな」という感じで、言うやいなやもうぱっと行くんですね。いやすごいねって。最後の最後に諦めないとか、そういう目標を達成していくのかなと感じました。

また、このかるたを授業とかいろいろところで使っていただけたらすばらしいかなと思いました。

ほかに何かご意見ございますか。

松井委員

松原のことがよくわかるんで、あれいいですね。わからないこといっぱいあったんです。

東野教育長

子どもらは、だいぶ内容を覚えています。大人のほうが覚えるのが難しいですね。

有馬委員

幼稚園の子でもすごくわかりやすく、絵を見て、ぱっととりにいけるんですよ。読むとすぐぱっといくし、ひらがなを覚えていく。本当にすごくいい教材だなと、家で本当に頑張っております。

東野教育長

来年は幼稚園もね、年長さんも考えてもらえるといいのかな。

有馬委員

全然いけると思いますよ。

東野教育長

1年生であれぐらいやったら、幼稚園の年長さん、いけるかもわかりませんね。この辺はまた、芝田課長に検討していただいて。たぶん公立、私立を問わなければ、いろんな方が来られるから、ひとつよろしくご検討をお願いします。

そしたら次にいかせていただきます。

続きまして、松原市児童生徒等就学援助費支給要綱の改正について、事務局より報告をお願いいたします。

平井教職員課長

教職員課、平井でございます。

松原市児童生徒等就学援助費支給要綱の改正についてでございます。

今回、就学援助の早期支給に向けて、所要の改正を行ったものでございます。

新旧対照表の7ページ、改正後をご覧ください。

第6条の下から3行目をご覧ください。「学用品・通学用品費及び学校給食費に係る就学援助費について4月中に、校外活動費及び修学旅行費に係る就学援助費については9月中に、医療費に係る就学援助費については当該医療費が発生した月の翌月までに、それぞれ請求するものとする」というふうでございます。

これまでは6月申請でしたのを、4月に申請というふうに変えております。これまでは6月申請で10月に前期分、3月に後期分の支給をしておりました。これは前年の所得が確定するのが6月ということから、これまでこのような取り扱いをしておりましたが、今回、所要の改正を行いまして、前々年の所得で申請を受け付けすることにいたしましたので、4月の申請が可能になったものでございます。そのことによりまして、新年度4月には受け付け、認定を行いまして、前期分を5月に支給し、後期分を10月に支給するものでございます。

以上でございます。

東野教育長

説明のほうは終わりました。

この件について、何かご意見、ご質問ございますか。

もう一つちょっとわかりにくいんですけども、何かこれでよくなったことなどございますか。

平井教職員課長	<p>よくなったことといたしますのは、これまでは10月に前期支給でしたので、10月までの分は立てかえ払いという形になっておりました。今回の改正により5月に給食費も全額1年分支給をされますので、立てかえ払いが本当に最小限で済むということでございます。学用品費についても5月に1年分支給をするということですので、学級費諸費の部分、その立てかえ払いが最小限で済むということです。もちろん3月には清算はあるんですけども、今まで、例えば4月、5月、6月、7月、8月、9月と給食費も先払いをしていたものが、全額支給をすることによって、全て賄えるということでございます。</p>
	<p>以上でございます。</p>
東野教育長	<p>ちょっとわかりにくい。どうもしっくりいかない。</p>
松井委員	<p>要は、本人の立てかえ払いが少なくなったということでしょうか。</p>
平井教職員課長	<p>はい、そのとおりでございます。</p>
松井委員	<p>誰が立てかえるのかと言ってくれないとわかりにくい。</p>
東野教育長	<p>経済的に厳しい状況で、本当は就学援助費で払うべきなのに、その支払いが遅いから、先に立てかえて払っておかなければならないということが、今回の改正によって、先に支払わなくても、このお金で全部納めればよいということですね。</p>
田中委員	<p>先払い、立てかえ払いが大変だという意見があったから、この改定をされたんですか。</p>
平井教職員課長	<p>そういう意見もございました。ただ、3月に前倒しで支給している市もございますが、そこまでは予算の先払いということで非常に難しいということもありますし、転出したときにはどうするのかということもございますので、4月に入ってから認定というふうにしたわけでございます。</p>
	<p>保護者の方からはできるだけ早く、特に4月当初、入学のときなどにお金が必要なので、できるだけ早くというような要望もございまして、そのようにさせていただいております。</p>

東野教育長	はい、よろしいでしょうか。 疑問があれば言ってください。
有馬委員	これを利用されている方には、お知らせというのはもうされているんですか。これからになるんですか。
平井教職員課長	今現在、新小学1年生には入学説明会でさせていただいております。それから、2月に入りましたら全員の方にお知らせをさせていただく予定になっております。
有馬委員	ありがとうございます。
栗崎委員	この援助費を支給するに当たっての取り決めというか、収入が幾らかかそういうのはありますか。
平井教職員課長	4人世帯で基本の所得になります247万円が今の基準となっております。1人家族がふえますと33万円基準が緩くなります。少なくなりますと、逆に33万円、基準がきつくなると、そういうふうになっております。
東野教育長	辰巳委員、何かございますか。
辰巳委員	<p>今の規定の第2条において、「この要綱に基づく就学援助費の支給を受けることができる者（以下「支給対象者」という。）は、松原市内に住所を有し、次のいずれかに該当するものであって経済的に困難な状況にあると市長が認めるものとする」と。ちょっと前よりも詳しくというか、具体的に、ここへ持ってきているんですね。経済的に困難な状況にあると市長が認めるものとする。</p> <p>前の規定と見比べてみると、前は、具体的な（１）、（２）の中で、そういう言葉ですね、例えば（１）のアイウエオのイのところ、「要保護者に準ずる程度に困窮していると市長が認めるもの」というふうに、これを第2条の最初に移した、これを明記したというのは、趣旨としてはどうということですか。</p>
平井教職員課長	特別事情という認定制度が本市にはございます。収入がオーバーしていても認定をするという制度がございますので、市長が困窮しているというふうに認めたのであれば、例えば収入は高いけれども、現在、離職

をしているとか、離婚したとか、お父さんがお亡くなりになったとか、そのような場合も積極的にといたしますか、認めていこうというそういう趣旨でこのように書かせていただきました。

東野教育長

よろしいですか。

他にないようでございますので、次に進ませていただきます。

続きまして、中学校給食の献立募集について、事務局より報告をお願いいたします。

小川教育総務
部副理事

学校給食課、小川でございます。よろしく申し上げます。

中学校給食の献立募集について報告させていただきます。

中学校の生徒の皆さんを対象に、給食の献立を募集したものでございます。生徒が栄養素をバランスよく組み合わせた献立について考えることで、今後の食生活に生かしていくということや、生徒が考えた献立を日々の給食に取り入れることによりまして、学校給食により一層興味・関心を持ち、楽しみとなるよう実施したものでございます。

応募のあった数でございますけれども、387件応募がございました。その中から、栄養のバランスや実際に給食として調理し提供できる、また経済的に適当かどうかなどを判断しまして、10作品の献立を採用したものでございます。

選ばれました献立につきましては、今年の1月から給食に登場しております。3月まで毎月3件から4件を採用しております。生徒の皆さんには、給食により一層、興味・関心を持ってもらって、楽しんで食べてもらいたいなど、そういうふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

東野教育長

はい、報告のほうは終わりました。

この件について、ご意見、ご質問ございますでしょうか。

栗崎委員

ちょっとせつかくですから、少しどういう献立なんかというのを教えていただけますか。

小川教育総務
部副理事

例えば、1月11日に初めて登場してきたわけでございますけれども、牛乳とご飯、それとジャコナッツ、ブリの照り焼き、ハウレンソウのゴマ和え、それと1月24日にもあったわけでございますけれども、このときは炊き込みご飯、肉ジャガ、シャケの塩焼き、ハウレンソウの炒め物、

	それと1月はあと1回、26日にあったんですけれども、豚汁、ホッケの一夜干し、レンコンとミズナのゴマ和え、ヨーグルトと、このようなメニューになっております。
松井委員	それ、子どもが考えたのですか。
小川教育総務部副理事	1食丸々考えてございます。
松井委員	それって、松井作とかっていうふうにして、生徒には、みんなにこれ誰の作品とかってわかっているんですか。
小川教育総務部副理事	個人名は出しておりません。何々中学の何年生の作品ということでお知らせはさせてもらっております。
松井委員	名前出したら、「何やこれ、まずいな」とかそういうことになりますから。
東野教育長	それでどうですか、もう2回終わったのかな、3回終わってどうなのですか。
小川教育総務部副理事	食べるときに、これは生徒がつくったものだということで話題になっているということは、栄養士のほうから報告をいただいております、また学校のほうでも、今日は生徒の皆さんがつくった給食ですというマイク放送でお知らせ等をさせてもらって取り組んでおるところでございます。
松井委員	やっぱりその日は残食は少ないんですか。
小川教育総務部副理事	残食のほうは変わらないです。
東野教育長	せっかくするのなら、もうちょっと頑張ってもらわないといけませんね。
有馬委員	続けていったらひよっとしたら減っていくかもしれませんね。減って

いったらいいですね。食育としては子どもたちが主体で考えていくのは
すごくいいことだと思います。

東野教育長 　　今後はどうされますか。

小川教育総務 　　4月からまた募集のほうをさせていただいて継続していきたいなど、
部副理事 　　そのようには考えておるところでございます。

田中委員 　　選ぶのも難しいですね。お金の絡みもあるし、栄養の絡みもあるし。
だから300、400近いのが10件になったのかなと。

東野教育長 　　逆に言えば、10件ぐらいやったら何でもいいのかなと。

田中委員 　　逆に言えば、そうなりますね。

東野教育長 　　10食ぐらいなら、もうちょっと子どもの趣向に合わせるようにしても
いいのかなという気もします。

松井委員 　　しかし、大量調理だから難しいと思いますね。栄養価も考えないとい
けないですし。

東野教育長 　　その栄養価がね…。

栗崎委員 　　バランスもちゃんとしないといけないですし…。

東野教育長 　　その辺はもうちょっと緩めてもいいのではと思ったりもします。

松井委員 　　緩めていいんですか。

東野教育長 　　それはまたほかの日の献立で栄養をカバーしてもらったりできるの
ではないかと思います。

小川教育総務 　　これは栄養士さんにやはり栄養価とか経済面も含めて慎重に判断して
部副理事 　　もらって選んでもらったという結果になっております。

東野教育長 　　やっぱり、おいしいものにしておかないとね。やっぱり残食を減らす

には、栄養も大事なんですけれども、やっぱりおいしいものをつくっていただければいいのかなと思います。やっぱり子どもたちの一定ある程度好きそうなものもちょっと入れていただいて。

松井委員

子どもらしくないメニューですから。

東野教育長

今、聞いていたら、そうですね。

辰巳委員

さっき聞いていたら、純和風のメニューですね。例えば子どもたちは空揚げが好きであるとか、そればかりもいけませんけれども、いろいろと中華が出るとか、あるいはハンバーグであるとか、何かな、具体的に出てこないけれども、そういうものもときどき混じってもいいんじゃないかなと思いますけれども。

東野教育長

この10作品の中で、ハンバーグとかそんなのも出るんですか。

小川教育総務
部副理事

ちなみに2月のメニューですけれども、2月6日はハンバーグです。

辰巳委員

やっぱりね。

小川教育総務
部副理事

今おっしゃられた空揚げのほうも2月13日にします。

辰巳委員

子どもの需要に応じているわけですね。

小川教育総務
部副理事

やはりこの辺は人気が高いので、こういうのを取り入れて応募をしてくられております。

田中委員

メニューと残食のそういう傾向というか、データというのがあるんですか。その関係性。

小川教育総務
部副理事

残食のデータは毎回とっておりますので、やはり子どもの好む、好まないという…。

田中委員

やっぱりそこにあるんですよね。

小川教育総務 部副理事	はい。
田中委員	今、辰巳先生がおっしゃられたように、子どもさんが好むような洋食的なものだったら残食は少ないという傾向はやっぱりあるのはあるんですね。
小川教育総務 部副理事	はい、ございます。
栗崎委員	調理の方法で、例えばお魚焼いたりとか、煮たら嫌やけど、揚げたら食べるよとかね、調理の方法の工夫というのものね、かなり要るのかなとも思いますけれども。
田中委員	栄養もそうだけれども、やっぱり食べてもらわないといけないので、まず根本的に残すことをなくしていくというのが大事かなと思います。
東野教育長	残すと、せっかくの栄養も…。
田中委員	そうです。まず食べてもらわないと。
松井委員	やっぱり栄養価基準が物すごいハードルになっている部分がありますよね。
東野教育長	そうですね。
松井委員	カロリー計算をしないとだめなんでね。
東野教育長	結局ね、20%以上残食だったら、栄養が8割しかとれない。
田中委員	全部食べての話ですよ。カロリーも栄養も。
東野教育長	国では5%から7%ぐらいは残食は出るとは言っているんですけど、ちよっと20%となると、多過ぎます。やっぱり子どもの栄養素がとれないということになります。

栗崎委員	<p>例えばすごく人気があるハンバーグとか空揚げだったら、足りないということってあるんですか。食べたいけれども、もうなくなったわとか。余ったらじゃんけんで決めているんですか。</p>
東野教育長	<p>それは学校のほうで。誰かわかりますか。</p>
瀧澤学校教育部長	<p>瀧澤です。</p>
有馬委員	<p>主に小学校現場のほうを挙げさせていただいたら、やはりおいしいもので余ったら、最後じゃんけんで争奪戦になって、なくなっていくので、ちょっと高学年なんかは物足りないなと思うときもあるようですけれども、ほかの分で充当して、それでトータルカロリーを合わせていくというような、そういった形でやっております。</p>
小川教育総務部副理事	<p>天美小学校でこの間、息子が給食の好きな物アンケートみたいなものを持って帰ってきたんです。なぜか1位か2位がカボチャのてんぷらで、すごく人気があって。だから子どももてんぷらとかだったら野菜を食べれるとかいうのがあるのかなって思いました。結構みんな渋いなと思ってながら見ていたんです。だから、学校でもそういったアンケートをとってもらうというのもありなのではないでしょうか。</p> <p>それと一つ気になったのが、アレルギー対応とかそういうことは栄養士さんが考えてやっておられるのでしょうか。</p>
松井委員	<p>アレルギー食の対応なんですけれども、牛乳、小麦、エビ、カニ、卵の5種類の食材が入っていないアレルギー食というのを提供させてもらっているんです。それで食べられない方があらかじめ申し込んでいただいて、それでそういうアレルギーの食材が入っているときにはそういうアレルギー対応食というのを必ず出すということになるんです。この日は要るけれどもこの日は要らないというような選択はできないことになっているんです。そういった対応をさせてもらっています。</p>
小川教育総務部副理事	<p>それって、アレルギーの子は同じメニューなんですか。</p> <p>アレルギー対応食というのは1種類ございます。先ほど申しました5種類の食材を省いてつくられたメニューで提供しております。</p>

松井委員	そうしたら5種類以外にアレルギーがある子はどうするんですか。5種類以外にもアレルギーを持っている子はいっぱいいると思うんですけども。
小川教育総務部副理事	それにつきましては、食材の原料配合表というのを、そういうアレルギーをお持ちの方にお配りをさせてもらいまして、その食材が出ている場合には、食べないという方法で対応させてもらっております。
松井委員	本人が対応するんですか。
小川教育総務部副理事	はい。
松井委員	1年生はいけるのかな。
東野教育長	いや、保護者が対応ですね。
小川教育総務部副理事	先生と相談していただくと。
松井委員	先生と保護者で。
東野教育長	給食の表を見て、そこに食材が書いていますので、これが引っかかるということでしたら、その日は給食なしでお弁当を持ってくるというようになりますね。
東野教育長	はい、ほかどうですか。 それでは、続きまして、台湾学校交流について、事務局より報告をお願いいたします。
山森教育推進課長	教育推進課の山森でございます。よろしくお願いたします。 私のほうから、台湾交流事業についてご報告をいたします。 手元に2枚組の資料があるかと思っておりますので、そちらと、後ほどDVD等も見ていただきながらご報告していきたいなと思っております。 平成29年12月23日から25日まで3日間、松原市中学生海外交流事業と

しまして、市内の中学生28名を台湾台北市に派遣をいたしました。28名の中学生は、9月に公募をいたしまして、応募が62名ございました。その中から抽選で選んで派遣ということになるわけですが、引率につきましては、第七中学校の田中校長、並びに四中、六中から教諭を1名ずつ、事務局のほうからは瀧澤部長、それから森課長補佐、長尾主幹、そして私、山森の7名で同行しました。

また、東野教育長におかれましては、「完全にプライベートですから気になさらずに」とおっしゃいながら、全く同じ日程で台湾のほうにお越しいただきました。ということで、交流をずっと見守ってくださったというような3日間ございました。

まず資料の左側、実施概要をご覧ください。そこに日程が幾つかあると思いますけれども、当日の3日間だけではなくて、事前に3回の事前学習をいたしました。その上で当日を迎えて、現地での3日間の交流を終えた後も事後学習を2回行って、交流の学びを深めていったと、いうことでございます。

事前学習ですけれども、台湾や台北市がどんなところかということについて学んだり、天母国民中学との学校交流に向けての準備を子どもたちは精いっぱい行った後、台湾に行きました。

3日間のことについて概略を簡単にお話ししますと、1日目は台湾名物の足つぼマッサージ体験を行いました。その後、中正紀念堂という史跡に行ってみりました。2日目、午前中は本市と友好交流協定を結んでおります台北市の文山区にあります指南宮というお寺ですね、こちらを訪問いたしました。また、車中からではございましたが、文山区役所なども見学をさせていただきました。

午後からは現地フィールドワークといたしまして、台湾の大学生1名、加えて日本の中学生ペア、都合3名で1グループを組みまして、台湾市内のフィールドワークをいたしました。

台湾の大学生、日本語を学んでいるという大学生ではあったんですけども、基本的にコミュニケーションは全て英語でとってくださいということを条件につけました。子どもたちは事前学習で台湾を調べたときに、台湾に行くのであればこういう史跡を見たり、こういう名所に行ってみたいとか、お昼にはこういうものを食べてみたいというようなことをあらかじめ勉強しておりましたので、そのことをその大学生に一生懸命英語で伝えながら、半日フィールドワークをしてくるということで、その支援を大学生にさせていただいたというような形になっています。

夕御飯まで3人で過ごしておりましたので、夕御飯を終えて帰ってく

るころには、大変その大学生となじみまして、離れがたいなという中でのお別れになりました。

最終日でございますが、学校交流先でございます天母国民中学校のほうに伺いました。生徒たちは、それぞれ7つのグループに分かれて、日本の紹介であるとか、大阪府の紹介、松原市の紹介ということを英語や中国語でプレゼンテーションできるようにこちらで準備をしていきまして、それを台湾の中学生のほうに見てもらおうという形でプレゼンテーションしたわけですが、事前学習でかなりこの部分には時間をかけて準備をいたしましたので、生徒たちは大変緊張しながらも、やり切ってくれました。

その後、生徒は2グループに分かれまして台湾の子どもたちと実際に体育の授業もしくは芸術の授業と一緒にいらさせていただいて午前中、同世代の子どもとの交流を楽しんだということでございます。

今、お話しさせていただいたのが、3日間の大体の概略でありますけれども、ちょっとそちらのほう、向こうで撮ってきた写真だとかビデオを編集しておりますので、少しご覧いただければなと思っております。

(映像を見ながら解説)

これが第一回の事前学習です。全然知らない子どもたち同士ですから、まず仲良くなることからということでした。

台湾のことを知るためのワークショップです。

ここからが大学生との交流の計画を立てたりですとか、そういったことに時間を使いました。

これはちょっと余興です。日本を紹介するのにどんなのがいいかなということをやっていますので、遊んでいるわけではありません。

ちょっと準備の時間が足りない子どもたちは、毎週土曜日に市役所のほうに来て、準備の続きをしました。

いよいよ出発です。市役所前での出発式です。

これは空港です。

台湾の空港に着きました。

これが足つぼを体験しているところです。

こちらが中正記念堂です。

これは夜に食べたご飯、小籠包です。

2日目になりました。こちらが友好交流協定を結んでいる文山区役所でございます。

ロープウェイに長いこと乗って、指南宮というお寺に着きました。こ

ちらが指南宮です。

台北101という大変高いビルなのですが、こちらの前で大学生と待ち合わせをさせていただきました。

これが現地の大学生です。

聞こえますか。英語でコミュニケーションをとっています。英語は余り得意じゃないという子も一生懸命英語で伝えていました。

3日目の学校交流になります。こちらが天母国民中学校です。

部長と向こうの校長先生と記念品の交換をさせていただいているところです。

校長先生の通訳をしている、日本語がとても得意な女の子がいました。

彼女も松原市から行った子で、今の挨拶を中国語で向こうの子に伝えてくれています。

この子たちは日本の文化について、アニメーションとかについての紹介をしています。

この子たちは日本のスポーツについて、柔道の紹介をしています。

この子たちは日本と中国の学校の時間帯の違いなどについて説明をしてくれました。

この子たちは大阪についての紹介をしています。大阪のおばちゃん「あめちゃん」を持っている、キャンデーをくれるということを行っています。うまく伝わりませんでした。

この子たちは、大阪府の観光名所について。

スパイダーマンです。

この子たちは松原市の紹介をしてくれました。

ここは一緒に行った授業体験です。半分の子たちが体育でバスケットボールをいっしょに体験をしました。

このピンクの服の子たちは台湾の天母中学校の子どもたちです。青い服とか白い服が松原の子どもたちです。

これはもう一つの芸術の授業のほうで、一緒に行っているところです。

これはもう学校をお別れするときの挨拶です。

これ台湾で最後の食事となりました。

帰ってきて1回目の学習会です。振り返りとまとめをいたしました。

これは先週の土曜日です。お互いが学び合ったことを交流し合って、終わりました。

はい、ありがとうございました。

東野教育長

山森教育推進課長	<p>もう少しあります。すみません。</p> <p>今、映像にもありましたけれども、帰国してから2回学習会をいたしまして、今回の交流事業を振り返っての成長など、お互いに交流し合っ て、まとめてみました。2枚目のほうに感想をつけております。こちら定期的に学校向けに発行してございました通信4枚を1枚としたんですけれども、最後、右肩30年1月となっているところの中に感想を幾つか入 れています。時間の都合上一つだけ読ませていただきます。「海外交流に参加させてくれた家族に感謝しています。もっとたくさんの国を知っ て、語学力を身につけたいと思います。何事も前向きにチャレンジする、できるかわからないならまずやってみる、これからもチャレンジしてい きたいです」ということで、たくさん子どもたち、全員がもちろん感想を書いているわけですけれども、感謝とか積極性とか前向きにチャレ ンジ、こういったことが子どもたちの中に大変印象に残った3日間の交流並びに事前事後の学習になったかなというふうに思っております。</p> <p>子どもたちは、最後、これを一人一人こういうコラージュボードとい いまして、こういった形で自分の台湾での思い出を写真と言葉で表現い たしまして、全員がこんなふうにつくっております。こちらのほうを3 月12日から16日に市役所のロビーをお借りいたしまして、全員分を張り 出して、今のDVDとともに、市民の方々に広く知っていただきたいな と、このように思っておりますので、また、もしお時間許せば、何かの ついでに見ていただければ幸いかなと、このように思っております。</p> <p>すみません、少し長くなりましたが、私の報告は以上でございます。 ありがとうございました。</p>
東野教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>報告のほうは終わりました。この件について何かご意見、ご質問はご ざいますか。</p>
栗崎委員	<p>62名の応募があったということなんですけれども、28名のこの選び方 というのを教えていただけますか。それと負担金とか、自己負担があれば。</p>
山森教育推進課長	<p>62名のうちからの28名の選び方でございますけれども、若干、学校に よって応募の数が違いますので、その学校ごとに行ける人数を案分いた しまして、抽せんで選んだということでございます。</p> <p>自己負担につきましては、生徒が負担するものにつきましては、パス</p>

ポートの取得代、それから旅行保険、こちらのほうについては自己負担ですが、あとにつきましては全て市の負担で交流を行ったと、こういうことでございます。

以上でございます。

松井委員

すばらしい体験だと思います。準備や心労は並大抵のものではないと思いますけど。できたら62名全員連れて行ってやってほしかったなと思います。でも、予算とかいろいろとあるんですよね。特には事後のまとめをしているところがすごくいいと思います。

気になるのは治安です。今、いろいろと何か政治的な動きもあって、どうだったのかなというのと、フィールドワークするときは野放しになるんでしょう。あれはどうかかと。主催者になったらあれはかなわないなと私なんかは思ってしまうんですけども。向こうの大学生の選定というか、信用できるのかどうかというの、物すごく恐ろしいなと思うんですけども、どうなんですか。

有馬委員

親としては、そこは不安になると思います。

山森教育推進
課長

ありがとうございます。全く同じことを私どもも、この企画をした段階で考えておまして、向こうの大学生につきましては、かなり念入りに選考をさせていただきました。条件として、まず実績があること。これまで日本の高校生が向こうに行ったときに、こういう取り組みというのが、旅行社のほうに実績があるということだったんです。ですので、そういう実績のある学生、加えてこれペアで中学生を組んでおりますので、女の子のペアのところにも男の子の大学生をつける、こういうことについては御法度ですよ。必ずやめてくださいということで、同性のペアには同性の大学生をつけて、なおかつ過去の実績があるということをお前提に置いておりました。

今、有馬委員がおっしゃったように、保護者としてはこのところで幾つか不安の声を聞きました。大丈夫ですかというのを聞いたんですけども、今のような同姓のグループに同姓の大学生をつけることだとか、それから、あと、台湾で行きそうなポイントについて、事前に私ども把握をしておりますので、付添の7名が通訳を伴いましてそちらのほうに先回りをして、写真を撮りがてら、大丈夫かという声かけをしながらやらせていただいたわけでございます。

松井委員	これGPSか何か持たせているんですか。子どもに。
山森教育推進課長	子どもたちといますか、小さな携帯電話をその大学生に持たせておりました、何かあれば、困ったことを大学生に言う、大学生から旅行社のほうにその携帯電話でつながるとい、そういう感じでさせていただきました。
松井委員	位置情報がわかるようなものは、今だったらそういうのも可能だろうから。
東野教育長	台北市内であればね、そんなに広くはない。私もプライベートでしたけれども、地下鉄で一つのペアを見えています。おおやっているなと思いました。
松井委員	本来はすごく楽しいものだと思いますけれども、信用できる人間もあれば、そうじゃない人間もおるので、恐ろしいなという部分もあります。
山森教育推進課長	当然、指導者というか、付き添いの人間のほうも、3回目になりました、今まで蓄積してきたはおるんですけれども、当然、今、ご意見いただいたような部分については、やはり毎回きちっと計画段階から確認をしながら進めていくと同時に、やはり今回のことについてもきちっと総括をして来年度につなげていくというように思っております。
松井委員	例えばGPSがないのであれば、事前に行く経路は、事前に出してもらっているとか何かあるんでしょう。把握しているんですよね。
山森教育推進課長	はい、把握しております。そこに大人が先回りをするという。
松井委員	そんなことを保護者に先に、言っているんだと思うんですけれども、言ってあげると物すごく安心すると思います。「行くところは事前にいただいていますよと。我々もずっと回っていますから、大丈夫です」というようなことです。
山森教育推進課長	何分海外のことですので、今、松井委員のおっしゃったことは、本当に保護者の立場に立てば、一番に来る心配事なのかなというふうに思っ

	ております。そのあたりは万全を期して行いたいと思います。
松井委員	でも多分、ここが一番おもしろいような気がします。
山森教育推進 課長	はい、ありがとうございます。
辰巳委員	参加した生徒というのは、もちろん台湾に関心があるとか、いろいろなことを行っていると思うんですけども、中には、さっきの動画で見せていましたら、英語で話をしている子もおりましたよね。やっぱり英語にある程度自信があるか、あるいは関心があるか、あるいはまた中国語にも関心があるのか、そういう子が比較的多く参加しているのかどうか、そのあたりはどうですか。
山森教育推進 課長	一口で言いますとさまざまなんです。中学生ですから、当然、簡単な英会話ぐらいについては単語で自分の意思を伝えるとかですね、簡単な文章を伝えるということはできますけれども、今回応募した子どもたちにいろいろ話を聞いていますと、やっぱりチャレンジしたいんですと。日々学校に行って、クラブ行って、帰って、ご飯食べて寝るっていう、こういう生活もいいんだけども、やっぱり前に向けて一步を踏み出すことで何かが変わるんじゃないかなと思って手を挙げた。随分迷った子どもたちもたくさんいました。行けるかな、中国語わからないし、英語は得意じゃないしと。でも、やっぱりやってみようということを振り返って学習会をしたときに、一步踏み出して本当によかったということと同時に、さっき申し上げたように、行かせてくれた、みんなを育ててくれる家族への感謝だとか、自分がこれからの生き方に積極性を持ってというような理解につながったとか、こんなふうに言っています。
辰巳委員	いいですね。しゃべれる以上にいいことだと思います。
松井委員	これは、来年もするんですか。
山森教育推進 課長	はい、来年も実施いたします。
松井委員	予算は同じ28人分ですか。

山森教育推進課長	そうです。
東野教育長	もうちょっと本当は増やしていきたいんですけども、まだちょっと、28人で。 すみません、今回、たまたまフィールドワークになってしまったんですけども、今まで、文山区さんの学校とやっています、そこではホームステイをやっていたんです。今回はちょっと文山区さんがだめになって、ほかのところでやったのですが、ちょっとホームステイまでできませんでした。今後それをもうちょっと整理をして、それが安定すれば、人数をちょっとずつでも増やしたいなと思っています。
松井委員	行く学校は毎年一緒でしたっけ。
山森教育推進課長	昨年度は静心中小學、今年是天母中学校です。
東野教育長	文山区ではないところですね。
山森教育推進課長	はい、違います。
東野教育長	そういうことで、今回、台北市のほうの教育局と松原市と友好協定を結びたいなど。そしたら向こうのいろんな区の学校ともやりやすくなります。そしたらまたホームステイ等も可能性が出てくるのかなと思います。
栗崎委員	これね、ライオンズクラブが台湾、台北市と何かしてなかったですか。
田中委員	たぶんやっていますね。
東野教育長	今度はライオンズクラブさんに、交流するのにちょっとお声がけしてもらえたらいいかもしれませんね。
田中委員	台中のほうだったと思います。

東野教育長	台中ですか。
田中委員	はい。機会があれば、また言っておきます。
東野教育長	よろしく願いいたします。
田中委員	松井委員がおっしゃったように、最後、帰ってきてからまとめるというのは本当に大事だと思うんですね。それをしないとああよかったなで終わっちゃうので、そういうボードをつくって、そしてなおかつ展示してもらえるとというのは、子どもたちにとって非常に記念になると思うし、かなり身につくことだと思うので、これは本当にいいことだと思います。
松井委員	教育長が自費で行かれるのもよくわかります。
栗崎委員	すみません、こんなこと聞いてあれなんですけれども、大体、子ども1人幾らぐらいかかっているんですか。
山森教育推進課長	ざくっとですけれども、10万円ほどです。
東野教育長	ほかに何かご意見ご質問ございますか。
有馬委員	今年3回目で、もう前に参加した先輩方がいると思うので、やっぱりやってよかったっていうのを伝えてもらって、応募人数が増えるかもしれないんですけど、僕も私もチャレンジしてみたいって思えるような募集を大々的にしてもらえたらいいのかなと思いました。
栗崎委員	でも、あんまり応募が多くなると落ちる子がかわいそうですね。
松井委員	でも、大変ですよ、やるほうが。リスクがどんどん広がっていくから。
栗崎委員	そりゃそうですよ。もしも何かね、そのときにあたりしたら。
有馬委員	でも、すごく内容はいいことだと思います。子どもたちの目が1日目、2日目、3日目で、表情がすごく生き生きしているのを、映像から見て

とれたので。

山森教育推進
課長

ありがとうございます。

東野教育長

それで、今アジアが、非常に発展しているんですね。台北もそうなんですけれども、インドネシアとかインドとか。これからの時代は中国をはじめアジアが発展してくるのかなというところから見ても、やっぱり中学生をアジアに送るのも、いいのかなと思っております。

この後、高校生になったら、また市のほうで、12月に募集がありました。オーストラリアでのそういう語学体験があります。

過去に台湾に行った子も手を挙げたということも聞いておまして、中学校、高校と行って、いろんなことを勉強していただけたらと思います。

栗崎委員

高校生も松原市のお金ですか。

東野教育長

そうです。

中学は市内の公立中学校が対象になってくるけれども、高校生については、松原市内在住の高校生が対象でどこの学校かは関係ありません。

栗崎委員

何人ぐらいですか。

瀧澤学校教育
部長

十名です。

栗崎委員

それはもう、額が違いますからね。

瀧澤学校教育
部長

額がかなりになりますので。

東野教育長

今後、やっぱり子どもたちには、いろんなところでチャレンジして、海外のことを知っていただくのもいいかなと思います。

ほかにはないでしょうか。

それでは、ほかはないようでございますので、その他、事務局から何か

	<p>ございますか。</p>
山森教育推進課長	<p>すみません、口頭になりますけれども、平成30年度でわかっております行事の予定について少しお伝えさせていただきます。</p> <p>まず、小学校5年生が参加いたします連合運動会でございますが、来年度につきましては5月13日日曜日を予定しております。</p> <p>続きまして、平成30年度は中学校の道徳教科書の採択の年になっております。こちらでも会議のほうで中学校の道徳の教科書の採択をしていただきます。</p>
田中委員	<p>また事前の勉強会もしていただけるんですね。</p>
山森教育推進課長	<p>はい、よろしく願いいたします。</p> <p>こちらでも具体的な日までは決まっておりませんが、インターナショナルセーフスクールの取り組みに第四中学校と第七中学校が着手をしております。ちょうど1年後あたりになると思います。平成31年の2月あたりに事前指導という形で取り組みの中間報告的な会をやらせていただくことを、今、話を進めてまいろうと思っております。</p> <p>すみません、口頭になりますけれども、来年度にわたってということでございます。</p>
東野教育長	<p>はい、ありがとうございます。今の報告について何かご質問ございますか。いいですか。</p> <p>ほかに何かございますか。</p>
浦井教育総務部次長	<p>ご報告が1点ございまして、29年度の補正予算についてです。</p> <p>教育総務部のほうでは、平成30年度に学校の改造工事であったり、改良工事ということで、松原東小学校の大規模、それと小学校のトイレ改造事業、中学校のトイレ改造事業、それと第七中学校の公共下水道の接続工事を考えております。</p> <p>このたび、国のほうの補正予算がとおったというお話をいただきまして、今、大阪府のほうから、30年度の工事を29年度に前倒しをしてできないものかという問い合わせをいただいております。こちらのほうで申請のほうを上げさせていただいております。</p> <p>本来であれば、補正予算の分につきましては、まず議案で教育委員会</p>

のほうにかけさせていただくということになっておるんですが、「この補正予算が適用されますよ」というのが2月15日ごろに府のほうから来るということになりますので、ちょうど教育委員会の谷間ぐらいになってしまいます。補正予算につきましては、また松原市の議会のほうにも上げていかないといけないということをございまして、本来であれば議案というところなんですけど、2月の教育委員会で報告事項という形でご承認いただきたいと思っておりますので、またそのときにつきましては、ご報告をさせていただきたいというように思います。

東野教育長

議案案件になる分ですけれども、府から通知が来てから、それを議会へ出していかないといけないということですので、その分については、報告案件で出していただいて、承認していただくような流れになるということです。よろしくお願ひいたします。

ほかに何かございますか。

それではないようでございますので、以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これもちまして、1月定例教育委員会を終わります。

どうもありがとうございました。

(閉会宣言 午後4時17分)

署 名 教育長 東野 光弘

委 員 松井 直輝